



国民の森林・国有林

林野庁  
中部森林管理局

〒380-8575長野市大字栗田715-5  
☎050-3160-6513

<http://rinya.maff.go.jp/chubu/>

広報

# 中部の森林



## 3月号

メールマガジン登録で本誌記事や観光情報のデジタル版を毎月お送りします。  
登録サイト：<https://mailmag.maff.go.jp/m/entry>



3月の見どころ聴きどころ⑧—四賀村の福寿草 春だよ～(ペンネーム 松本のイマちゃんさん からの投稿)

主な項目	○ 本局のトピックス (コンテナ苗の生産技術向上と普及に向けて ほか) …… P 1
	○ 各地からのたより (岐阜県森林・林業関係合同発表会の開催) ほか …… P 5
	○ シリーズ「ご当地自慢」(岐阜森林管理署 道の駅「平成」) …… P 9
	森林のお仕事紹介コーナー
	☆「森林官からの便り」(岩村森林事務所) …… P10
	☆「森林・林業界からの便り」(長野森林組合) …… P11
	☆「林業土木業界からの便り」(森林テクニクス 名古屋支店) …… P12
○ 4月の見どころ聴きどころ …… P13	

〈本局のトピックス〉

コンテナ苗の生産技術向上と普及に向けて

【森林整備課】

二月十九日、長野県林業センターにおいて長野県山林種苗協同組合の主催による「苗木生産研修会」が開催されました。苗養技術の向上を目的に開催されたもので、苗木生産者と需要者である中部森林管理局、長野県、森林組合、林業事業者等多くの関係者が参加しました。

研修会では、長野県からは、森林づくり推進課の宮崎技師から「長野県の山林種苗行政について」、また、長野県林業総合センターの清水研究員から「長野県のコンテナ苗の生産技術及び病害虫対策等について」講演がありました。

当局からは、森林整備課郷原監査官から、低コスト造林の推進に向けたコンテナ苗の必要性と、花粉症対策苗を積極的に使用していく当局方針を伝え、生産者への協力をお願いしました。また、東信森林管署の島田、加東両森林育成



カラマツのコンテナ苗畑

担当より、中部森林技術交流発表課題である「カラマツ種子の安定供給に向けた取組（清万採取園の整備）」について発表し、参加者の関心を集めることができました。

基調講演では、前全苗連会長の太田清蔵氏から「コンテナ苗木の有利性とその植栽状況について」と題し、コンテナ苗導入当初から積み重ねてこられた経験と研究に基づいた紹介がされました。

今後のコンテナ苗の安定生産技術の向上と普及について、一層の理解を深めることができる有意義な研修会となりました。

治山・林道工事コンクール表彰式を開催

【治山課・森林整備課】

二月二十五日、中部森林管理局において「平成三十年度治山・林道工事コンクール表彰式」を行いました。

このコンクールは、国有林野の公益的機能発揮や事業実施における施策効果を一層発現させることに貢献した治山・林道工事であって、民有林の模範としてふさわしいものを表彰し、工事における計画、設計・施工の適正化及び技術の向上、並びに関係者の意欲高揚に資することを目的に実施しています。

コンクールの審査は、平成二十九年度に中部局管内で実施した、治山工事百四件、林道工事三十三件を対象として、施工管理と安全管理について審査を行い、治山工事で十四件、林道工事で六件を優良工事として選出しました。

このうち、治山工事二件と林道工事二件が林野庁長官賞、治山工



受賞された方々と関係者

事十二件と林道工事四件が中部森林管理局長賞を受賞しました。また、林野庁長官賞受賞工事の監理技術者、主任技術者、現場代理人が中部森林管理局長賞を受賞しました。

## 「国有林の地域別の 森林計画等検討会」を開催

### 【企画調整課・計画課】

二月二十六日、中部森林管理局  
大会議室において、平成三十年度  
に策定、変更を行う地域管理経営  
計画（案）及び国有林野施業実施  
計画（案）について審議を行う、  
有識者による検討会を開催しまし  
た。

今年度の検討会は三部構成と  
し、一部では、各計画書（案）に  
ついて記載内容を審議し、原案の  
とおり了承されました。

二部では、平成三十年年度の中部  
森林管理局の取組事例として、技  
術普及課からニホンジカ被害対  
策、富山森林管理署の水無湿原湿  
性植物保護の取組、東信森林管理  
署の地域振興への寄与、岐阜森林  
管理署の伐採・造林一貫作業の取  
組について、各署長より紹介しま  
した。

また、三部では中部森林管理局  
の事業への提言や森林・林業の再  
生に向けた意見などを各委員より  
いただきました。



各森林計画（案）の概要説明の様子

委員からは、「見直しによりレ  
クリエーションの森の箇所が減る  
中、国民が森を散策し森林を理解  
することは大切なことであり、使  
われ方に応じた適切な管理や民間  
と連携するなど引き続き取組を進  
めてほしい。」などの意見があり  
ました。

本検討会で了承された計画につ  
いては、三月末に公表することを  
予定しています。計画の詳細につ  
きましては、中部森林管理局の  
ホームページをご覧ください。

[http://www.rinyamaf.go.jp/  
chubu/policy/business/  
sinrinkeikaku/  
sinrinkeikaku21.html](http://www.rinyamaf.go.jp/chubu/policy/business/sinrinkeikaku/sinrinkeikaku21.html)



## 生産性の向上を目指して、 林業を「儲かる」産業へ

### 【資源活用課】

中部森林管理局では、局大会議  
室（三月六日）と木曾森林管理署  
多目的ホール（三月七日）の二会  
場で、管内の素材生産事業者や県  
等からの参加者を得て「生産性向  
上実現プログラム取組事例発表  
会」を開催しました。

発表会では、地域の林業事業者  
の底上げとなる普及活動として、  
今年度の優良な取組事例について  
発表を行いました。

最優秀賞を受賞した木曾土建工  
業（株）では、現場の状況に応じ  
た人員配置による生産性の向上を  
目指して、作業の単純化、マルチ  
技能者の育成等により、目標生産  
性八立方<sup>立</sup>／人日に対し十六立方<sup>立</sup>  
／人日と、非常に高い生産性を  
達成しました。

優秀賞を受賞した（有）北原土  
木は、GPS・GIS等を活用  
し、作業区域を五ブロック二十四  
区画に分け効率的に搬出するアイ  
ディアが評価され、同じく優秀賞



2台のグラップルの連携で  
効率よく集造材する現場

を受賞した飛騨高山森林組合は、  
列状間伐において、集材距離・集  
材本数による功程調査を実施し効  
率的な作業を構築する取組が評価  
されました。

中部森林管理局では、生産性だ  
けでなく有利採材や安全な労働環  
境の改善も含め、意欲と能力のあ  
る林業経営体を育成し、林業を  
「儲かる」産業にできるよう引き  
続き取組を行うこととしていま  
す。

※詳細は、中部森林管理局ホーム  
ページをご覧ください。

[http://www.rinyamaf.go.jp/  
chubu/policy/business/  
sigoto/seisensei-pg/  
attach/pdf/index-8.pdf](http://www.rinyamaf.go.jp/chubu/policy/business/sigoto/seisensei-pg/attach/pdf/index-8.pdf)



## 〈本局のトピックス〉

### 幅広い知識や技術を得る

#### 新発想の研修を実施

##### 【総務課】

中部森林管理局では、職員の能力向上を目的として各種研修を実施しています。新規採用研修から始まり、森林官養成研修、一般業務研修、専門業務研修など様々な研修を実施しています。こうした中、平成三十年から新たに実施している研修「地域森林・林業・木材産業技術研修」を紹介します。

この研修は、職員の希望により地方自治体、大学、関係団体等が主催するセミナーや研修会などへ参加し、林業技術、鳥獣保護管理技術、民有林施策等の様々な最新知識及び技術を習得することを目的としたものです。

平成三十年度受講内容は、民間企業が主催した特別シンポジウム「木と健康」、林政協議会等が主催した「スギ大径木材の乾燥および構造材としての利用」、市が主催した森林環境特別講演会「森林・林業とその資源的利用の処方箋」、

法人が実施した「認知症予防運動プログラム（コグニサイズ）実践者研修」など多岐にわたります。

例えば、「認知症予防運動プログラム（コグニサイズ）」は、森林セラピーと共に森林内で実施することを提案すれば、国有林野のさらなる活用の一つとなり多くの皆さんに国有林野を利用していただけるようになる、といった発想が得られるなど、業務を行う上でヒントを得ることにつながっています。

また、研修を受講した後は、自署においてOJTを実施し、より多くの職員に情報を共有するようにもなっています。

今後この研修を続け、新たな視点による発想や技術を取り込み、更なる職員の能力向上につなげていきます。



受講したパンフレット

### 「流木災害防止緊急治山対策

#### プロジェクト」の取組状況

##### 【治山課】

平成二十九年七月九州北部豪雨による甚大な流木災害等の発生を受けて、林野庁では、流木災害防止緊急治山対策プロジェクトとして、概ね三年間で緊急的・集中的に流木対策を推進することとしています。

中部森林管理局では、森林の山地災害防止機能の向上を図ることを基本として、間伐等による根系等の発達促進を図りつつ、流木災害の発生メカニズム等を踏まえ、流木の「発生区域」では山腹崩壊の発生を防止するための山腹工、その下流部の「流下区域」及び「堆積区域」では被害拡大を抑制するための流木捕捉式治山ダムの設置等流木対策に取り組んでいます。

しかしながら、局管内の国有林には、既に一万七千基の治山ダムを設置しており、新たな流木捕捉式治山ダムの効果的な設置場所の選定が課題となります。



局独自開発した「流木捕捉工」  
(中信森林管理署管内シシ沢)

そのため、中部森林管理局では、林野庁施工企画調整室が平成三十年度に実施している「効果的な流木捕捉技術の検証事業」の一環として、既設治山ダムを活かすつつ流木を捕捉する施設（流木捕捉工）を独自開発し、局管内二カ所において試験施工と現場見学会を実施しました。

試験施工の結果としては、経済性・施工性にも優れ、施工者からも好評でした。平成三十一年度には、新たな試験地を追加し、更なる検討を進め、流木災害を防止し、地域の安心・安全に結びつけたいと考えています。

## 森林・林業社会貢献活動

### 中部森林管理局長から感謝状

#### 【総務課】

三月十四日、中部森林管理局において、森林・林業社会貢献活動に功績のあった企業・団体への局長感謝状の贈呈を行いました。

感謝状は、災害時における防災ボランティア活動、国土緑化推進等を通じた森林づくり、地域の奉仕活動における地域連携・社会貢献活動に功績のあった団体、企業に贈られるものです。

今回は、昨年七月に各地で発生した豪雨災害における被災状況の把握と復旧活動、台風通過後の危険箇所の情報収集や風倒木の除去活動、「国有林530(ごみゼロ)運動」、「山の日制定記念クリーン活動」として、管内国有林内の観光地や国道沿線、自然休養林内での不法投棄ごみの回収の活動、ハルザキヤマガラシ、セイヨウタンポポの除去、ニホンジカ被害対策としての「ついで見回り・通報」等外来種の駆除活動や獣害対策活動など様々な社会貢献活動に積極

的に取り組んだ九企業、八団体の皆さんに贈られました。

局長から、こうした活動に対する感謝の言葉が述べられ、各団体、企業の方々に感謝状が手渡されました。



感謝状を贈られた方々との記念写真

## 天皇陛下御在位三十年記念

### 分収造林の契約調印式を開催

#### 【森林整備課】

三月十九日、天皇陛下御在位三十年記念分収造林に係る契約調印式が行われ、契約いただいた長野県長野市の(株)中嶋製作所(中嶋君忠代表取締役)、同県木祖村の木曾土建工業(株)(水本豪代表取締役)、同県小諸市の東信木材センター協同組合連合会(田中高徳理事長)の三者と局長とで調印を行うとともに、各者に対して局長からの感謝状を贈呈しました。

記念分収造林は、歴史的な行事等を記念し実施されるもので、今回の分収造林は、天皇陛下御在位三十年を記念し各府省が行う国の慶祝行事の一環として、全国の国有林野において、国民参加の森林づくりの更なる促進を図るため行うものです。

三者との該契約箇所は、それぞれ北信、中信、東信の森林管理署管内で、カラマツやヒノキの植栽を予定しています。

調印式に先立ち局長から、感謝の言葉とともに、記念分収造林を契約いただくことは、各社としても環境貢献活動を大きくPRできるものであること、更には「持続可能な開発のための国際目標SDGs」における森林の持続可能な経営や再植林の国際目標達成にも貢献することとなる旨の挨拶がありました。



契約調印された三者と局長との記念写真

### 〈各地からのたより〉

#### 平成三十年度岐阜県森林・林業 関係合同発表会にて取組を発表

##### 【飛騨森林管理署】

二月一日、岐阜県関市のわかくさ・プラザ多目的ホールにおいて、「岐阜県森林・林業関係合同発表会」が開催されました。

この発表会は、県内の森林・林業関係者が一堂に会し日頃の林業普及活動や試験、課題研究等の発表を通じて県民に最新の森林・林業の話題を提供することにより、岐阜県の森林・林業の発展に寄与することを目的として毎年開催されています。

今回は、岐阜県森林研究所、飛騨高山高校など各関係機関から八課題が発表され、飛騨森林管理署



発表する本間・小枝職員



ドローンを操縦して、いざ計測へ

からは「国有林における無人航空機の計測的活用」を発表しました。

無人航空機（ドローン）を利用して、国有林で現在保有している資材と実行体制の中で、樹高計測など計測的利用可能性を検証したものです。参加者からは、「基準点の設置にはどの程度の時間を要したのか」などの質問があったほか、コスト面などのアドバイスをいただきました。

今後は、アドバイス等いただいた情報を元にさらに測定精度の向上の方法を模索しながら日頃の業務に活かしていきたいと思えます。

#### 郡上市白鳥・高鷲地区森林整備 推進協定を締結

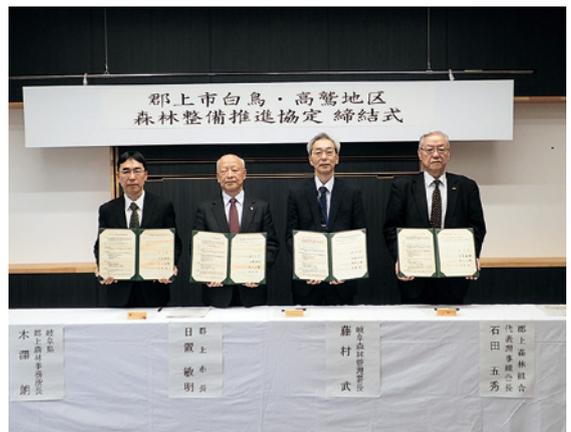
##### 【岐阜森林管理署】

国有林では、民有林と協調した路網整備、森林整備を進めるため、関係市町村、県、森林組合等と該当森林管理署において「森林整備推進協定」の締結を推進しています。平成三十三年度の取組開始以降、中部森林管理局管内では十三地区で協定が締結されました。

岐阜県内においては、これまでに、飛騨川流域三地区（東白川村、下呂市、七宗町）、宮・庄川



各団体の長による民国連携検討会



各団体の長による協定の締結

流域一地区（高山市）、木曾川流域一地区（中津川市）、揖斐川流域一地区（揖斐川町）の計六地域において協定が締結されています。

今般、岐阜県内で七地区目、長良川流域では初となる森林整備推進協定の締結のための調整が整い、二月十五日に協定締結式を行いました。

今後は、今回締結した森林整備推進協定に基づき、郡上市白鳥・高鷲地区における具体的な森林共同施業団地の設定に向けた関係者間の協議をさらに進めていきたいと思えます。

## D材有効利用検討会を開催！

### 【愛知森林管理事務所】

二月二十日、愛知森林管理事務所においてD材有効利用検討会を開催しました。川上からは素材生産事業者など七事業者、川中からは二回収事業者、川下からは今夏、バイオマス事業を稼働する一事業者の総勢二十六名が出席し意見交換を行いました。

国有林においても今次計画では多くの収穫量が見込まれ、その中にはD材も多く含まれています。こうした中、川下においてもバイオマス事業が既に本稼働しており、今年度においても豊橋市臨海部でサーラーパワー(株)(約二十二メガ)が稼働しようとしています。

愛知所としては、こうした川下と川上の動きをリンクさせ双方がウィン・ウィンの関係を構築できないかとの思いで検討会を開催したところです。意見交換会では、川下最終使用者、川中D材回収業者、川上D材生産事業者からそれ

ぞれ、コマを設けての意見出しを行いました。

川下からは「流域からより多くの原料を回収したい」、川中からは「回収可能な場所、車両が入れるか、中間土場は必要」、「双方の利害の一致」、川上からは「ヤードが狭く、D材で現場が動かなくなった」、「林道が狭く大量輸送ができない」、「D材のサイズは？材の古さは？」など多くの意見等が出されました。

愛知所としては、D材の有効利用が川上から川下までの関係を構築できるような、橋渡し役として取り組むこととしています。



検討会の様子

## 三峰川みらいフォーラムで

### ニホンジカの被害対策を講演

### 【南信森林管理署】

二月二十三日、伊那市高遠閣において、伊那市の市民団体「三峰川みらい会議」(織井秀夫代表)が主催する「三峰川フォーラム」が開催されました。

今回で十九回目となるフォーラムは、有害鳥獣を学ぶ「ニホンジカによる食害」をテーマに行われ、当署の渡邊修森林技術指導官が「南信森林管理署の事業概要とニホンジカ対策について」と題して基調講演を行いました。

その後パネルディスカッションなどで食害や有害鳥獣の駆除等の現状について理解を深めました。パネルディスカッションには、参加者全員が参加し、地元猟友会高遠支部長からは、十五年位前から急激にニホンジカが増え、銃猟捕獲では効果が上がらず、自分でワナを製作し、年間千頭以上も捕獲したことが報告されました。

参加者からは「南信森林管理署が地域と一体になって高山植物等

の保護やパトロール、植生の復元から、ニホンジカ等による食害対策まで幅広く様々な取組をしていることを初めて知った。『ついで見回り・通報』で百五十八頭も捕獲したことに驚いた。今後も継続して欲しい」といった声も聞かれました。

最後に、織井代表が「今までニホンジカの食害等への関心が薄かったが、食害状況や鳥獣対策の難しさを知ることができた。これを機会に地域の人たちと一緒に考えて、安全・安心な地域を作り上げていきたい」と締めくくりました。



講演する渡邊指導官

### 〈各地からのたより〉

#### 職場内研修で

#### 大規模製材工場などを視察

【岐阜森林管理署】

二月十九日、署内に勤務する若手職員を対象とした職場内研修を実施しました。

研修では、①平成三十年六月に操業を開始した豊田市の大規模製材工場（株）西垣林業豊田工場）の視察、②都市住民等へ森林林業や木材利用推進のための情報発信を行っている「熱田白鳥の歴史館」の見学を行いました。

豊田市の製材工場は、愛知県産材のスギ、ヒノキ（A・B材主体）を主体とし、最新の検知機材や製材機械により年間四万五千立



機械化された製造ライン



原木置場での説明

方は（百二十立方メートル／日）の柱、土台等を生産しているラインを視察しました。次の、「熱田白鳥の歴史館」では、展示資料をもとに熱田白鳥地区と飛騨川、木曾川流域の林業の歴史について学びました。

参加者は、山で生産された木材が、大規模に機械化された生産ラインで加工され製品となる様子を感じて見て規模とスピードに関心するとともに、質疑の中では工場の担当者から「安定的な原木の受入れに苦慮している」といった要望もあり、供給（山）側としての課題も受けとめました。

今回学んだことを、今後の業務に活かしていきたいとの感想が聞かれました。

#### 広葉樹の価値を再認識！

#### 有利販売検討会を開催

【名古屋事務所】

三月一日、小林三之助商店各務原営業所において広葉樹等の有利販売に向けた検討会を開催し、若手職員を中心に十一名が参加しました。

検討会は土場に並べられた原木を前に、樹種毎の主な用途や最近の需要動向、事前に出された質問に対する回答を市場の方から説明を受けつつ、意見交換や質疑応答を行う形で進められました。

「枝の上か下のどちらで切った方が良いか」、「細くても価値がある樹種は何か」といった質問や「構造材と木工用の区別判断も必要になる」、「長級は樹種によっても検討が必要」などと有利販売に向け意見を交わす場面も見られました。

ともすればパルプ向けの材として判断してしまいがちな広葉樹やモミ等の針葉樹ですが、市場ではスギやヒノキより高額となることも多いことから市場のニーズを知

り、価値感を見直すことで有利販売に繋げていけることを確認する機会になりました。

また、午後からは同じ団地内で操業している親和木材工業の広葉樹製材工場に場所を移し、南洋広葉樹の製材工程と主な用途などについて会社の方より説明を受けました。オペレーターが原木に合わせて木取りしていく製材は最近では珍しく、手際よく製材されていく工程に参加者は興味深く見学しました。

この会社は多少質の悪い材でも価値を見いだす工夫に取り組んでおり、スギの効用を利用した空気清浄機開発などについても説明いただきました。



木取りについて説明を受ける参加者

和気あいあいと、国際カレッジらしい調印式（遊々の森協定）

【東信森林管理署】

三月六日、軽井沢町浅間山国有林に隣接する、ユナイテッド・ワールド・カレッジ・ISAK（アイザック）ジャパンと東信森林管理署とで「遊々の森」協定を締結しました。

一昨年から同校生徒の間で「隣接する国有林で林業体験や森林レクリエーションを行いたい」との声が高まり、森林管理署関係者と生徒数名で一年余りかけて踏査、



全校生徒と共に記念写真



のこぎりを手に作業する生徒

検討を行い、校舎西隣の浅間山国有林二〇七二林班約三〇畝を「UWC ISAK Japan 大日向遊々の森」として設定することとなりました。

当日は生徒集会で調印式典を開催。生徒二百人が見守る中、澤山署長とジェミソン学校長が協定書に署名。最後は拍手と歓声の中、全校生徒をバックに記念撮影。国際カレッジらしい賑やかな調印式となりました。

また、式典後は希望者十二名を集めて遊々の森エリア外周の籾刈り作業を行いました。

この森がISAKジャパンの生徒によってどう変化していくのか、署としても連携していきたいです。

王滝村の林道災害を

三機関が役割分担して早期開通

【木曾森林管理署】

昨年七月の大雨による王滝川の増水で、村道三八号線（併用林道）が約六〇％崩落、通行不能となり災害復旧工事を実施していましたが、三月十三日に完成しました。この工事は、長野県と長野県建設事務所が護岸工事を先行して進め、護岸工事完成後に当署が舗装工事等を実施したものです。



昨年7月の被災直後の林道



完成した林道

この村道は、王滝村の中心部と滝越地区を結ぶ幹線道路であり、災害発生後避難生活をしてきた滝越地区九世帯十六人の住民の皆様のためにも一日も早い復旧が望まれています。

完成までの間、村、建設事務所、当署の三機関により六回にわたる調整会議を実施し、それぞれの役割を確認、分担する中で連絡・調整が迅速かつ緊密に行われたことが早期復旧につながったものと考えています。



「新しい時代へ」ありがとう「平成」

岐阜県関市平成地区（旧武儀町）は関市東部にある山あいの小さな集落です。一九八九年、新たに発表された元号「平成」と日本で唯一、同じ漢字の地名であったため、平成時代の幕開けとともに空前の「平成フィーバー」が勃発しました。わずか九世帯、人口三十五人の集落は二躍脚光を浴び、全国から多くの人々が訪れるとともに、日本平成村の立村や「平成」の名を冠したイベント開催や商品開発など、「平成」によるまちづくりを積極的に展開してきました。

◆道の駅「平成」

平成八年には道の駅「平成」がオープンし、年間六十万人の観光客が訪れる観光地に変貌しました。



道の駅「平成」

地区の特産品は原木シイタケ、元々特産品であったものが世に出て更に売れるようになり、椎茸茶、シイタケスナックから椎茸カツ井などの多くの新商品が開発され恵みをもたらしました。

◆平成ごぶし街道

道の駅「平成」は、美濃と南飛驒を結ぶ県道五八号線沿いにあり



平成ごぶし街道のこぶしの花

ます。この県道は「関金山線」又は「平成ごぶし街道」の愛称で親しまれており、沿道には多くの「こぶしの木」が植えられており、春先には真っ白なこぶしの花が見頃を迎え、この道を通る多くの人を楽しませてくれます。

◆平成山（三八一峠）

山頂へは往復二時間程度で登ることができ、手軽な登山ができます。途中の平洞からは素晴らしい景色が見られます。四月三十日（平成最後の日）までに平成山に登ってみませんか！

今、新元号への改元を間近に控え、日本の中心・「平成」の地から「平成時代」への愛と感謝を伝える「ありがとう！平成時代」と銘打つ

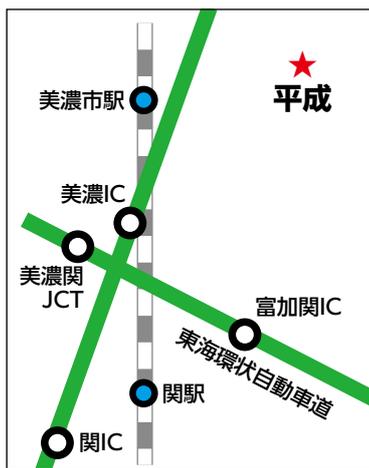


平洞からの眺望（左奥は御嶽山）



道の駅「平成」入口です

た数々のイベントが行われています。来月には、平成最後の日の入りを見る催しも計画されているなど、平成最後を盛り上げようと県内外から大勢の人が訪れています。終わりにゆく平成時代を惜しむかのように「平成ラストフィーバー」を迎えます。



◆アクセス

○東海環状自動車道「富加関IC」Cより約十分、県道五八号線「関市街地」より約二十分



シカ柵の点検作業

管轄するのは、恵那市、瑞浪市の五つの国有林（上村恵那、岩村、明智、串原、小里）約五、〇三〇鈔と、四市町村の公有林野等官行造林地（上矢作町、瑞浪市、多治見市、御嵩町）約二九九鈔であり、里山から奥山まで広範囲に及んでいます。

岩村森林事務所は岐阜県恵那市の南東に位置する岩村町内に所在しています。

【東濃森林管理署岩村森林事務所】

首席森林官 安田 智



国有林と言えば現場、現場と言えば森林官！しかし、一般の方には余り馴染みがないと思います。そこで各地にある森林事務所や地域の特徴、森林官の仕事などを紹介していきます。



間伐作業実行中の注意看板

職員は、森林官一名、行政専門員二名の三名で、生産請負や造林事業など事業実行のほか、事業箇所の確認や境界巡検・各種森林調査等の業務にあたっています。特にここ数年は皆伐に伴う新植地も増えていることから、獣害防護方法の検討や、既設防護柵の倒木などによる損傷の点検も重要な業務となっています。



見学者へ説明する森林官

また、一つの森林事務所管内では珍しく、二ヶ所の「山城跡」があります。岩村国有林の隣接には日本三大山城の一つ「岩村城跡」、瑞浪市小里国有林内の貸付地には県の史跡指定「小里城跡」があり、三十年度には両方の隣接人工林で間伐作業を行いました。一般の観光者も目に入る場所である



岩村森林事務所の三名 (中央が筆者)

岩村国有林、明知国有林は市街から近いこともあり、事業実行箇所への見学、視察、体験などが多く計画され、また、県の植栽試験地設定など里山特有の利用もされています。

今後、地域の声に耳を傾け、本署と連携し、安全第一を念頭に全員が無事故・無災害で「楽しい職場」をモットーに励みたいと思っています。

■未来の担い手へのメッセージ  
私は十年前まで北海道内の国有林にも居たのですが、新雪の山へ山スキーを駆使し、息を切らして登った尾根の上で、静まりかえった森林の中に入った時の感覚や、本州ではスギ林を越えヒノキ林の尾根で立ち止まって見上げる時、心が「スー」と「ホッ」となった感覚を忘れません。自然の中に居ることを痛感し、その中では人間がとてもしげな存在だと気づいたり、昔の人の植林に感動したり。いつもではないですが、これらの記憶がずっと残っているのは、恐らく人生の中でも貴重で価値のある時間なのだと思います。そんな経験もできる山の仕事を選んで共に仕事をしましょう。

受注してくださる民間事業者あつての国有林。そこで、国有林の植林や間伐などを行う森林・林業事業者からの投稿をもとに、頑張っている若者や女性技術者などを紹介していきます。



長野森林組合

まるやま やすみ  
丸山 恭史  
(二〇一七年入社)



木材を運搬中の丸山さん

■事業の概要

請負事業：製品生産請負事業  
(素材生産ほか北信2黒姫山  
(伐採・造林一貫作業))  
発注者：北信森林管理署

事業内容は、黒姫山国有林の六十年生のスギ人工林約一四・五haの皆伐と機械地拵、植栽の一貫作業です。伐採搬出作業に使用する重機を地拵作業に活用するのでコスト削減につながります。また、植栽時にフォワーダを使って苗木運搬をすることで、運搬労力とコストの軽減ができます。

■現場での役割・魅力

現場ではチェーンソー伐倒、スイングヤードでの集材、フォワーダでの運材を行っています。日頃、「二つ一つの作業をどうすれば効



率良く安全にできるか」を考えており、思った通りの伐倒ができた時や、今日はこれだけの材を出す事ができた等の達成感を感じられるのが林業の魅力だと思います。



■森林・林業の世界に入ったきっかけ

私は山村で生まれ育ったので、森林を常に身近に感じていました。小学生の時に自然に関わる授業で、木を伐倒する場面を初めて見て、人間の何倍も大きい木を倒せるということに衝撃を受け林業に興味を持ちました。それがきっかけで林業について学びたいと考え



長野県林業大学校に進学しました。そして、林業の現場の技術、考え方や知識を更に身に付けたいと思い長野森林組合に技能職員として就職しました。

■未来の担い手へのメッセージ

林業はとても危険な仕事ですが、一つ一つの作業を丁寧に行うことで危険を減らすことができます。私も安全作業に注意し、技術や知識を更に身に付け作業効率を上げ、安全な職場作りに取り組んで皆さんが働く環境を整えて待っています。

受注してくださる民間事業者あつての国有林。そこで、国有林の林道や治山工事などを行う森林土木事業者からの投稿をもとに、頑張っている若者や女性技術者などを紹介していきます。

シリーズ

「林業土木業界からの便り」



森林テクニクス 名古屋支店

わかやま 直渡

(二〇一八年入社)



現地で測量作業を行う若山さん

■業務概要・目的

請負業務：林業専用道等調査設

計業務（愛知県

多米林業専用道 延

長一五二（ト）

発注者：中部森林管理局

本調査地は、愛知県豊橋市岩崎町に位置する豊橋国有林です。当

業務は、効率的に森林施業を実施するため、既設多米林道を延伸し、既設岩崎林道へ接続する路線の調査測量設計です。



計画路線の現況写真

■現場での役割・魅力

林業専用道の測量設計業務は、準備計画・現地踏査において計画箇所の地理的条件、森林施業ポイント、作業の危険性を把握して、路線勾配・コントロールポイントならびに車廻し・待避所の位置、残土処理の方法等について適切な方法を考え、実施する必要があります。現地では主に測量の器械マンとして業務に携わりました。まだまだ未熟者ですが、先輩方から指導していただきながら、予定

通り作業を進めることができました。

また写真撮影ではドローンを使用し、森林施業予定地、国有林界等、計画路線との位置関係が明瞭となるように撮影しました。これからの時代、新たな技術がさらに増えていくと思うので、しっかりと身に付けて、効率よく業務に取り掛かれるようにしたいです。

業務は、デスクワークだけでなく、現地調査のために現場へ出て山を歩くことが楽しみの一つです。都会のコンクリートに囲まれた近代的な生活も良いですが、自然相手に仕事ができる等、色々な魅力があると思います。



横断測量を行う先輩方

■森林・林業の世界に 入ったきっかけ

私は子供の頃から山に登るのが好きだったので、高校は自然環境について学べる学校に行きました。働くならそういった森林や自然に携われる仕事がしたいと思い、就職しました。

■未来の担い手へのメッセージ

私は今年二十歳になったばかりで、職場内に同世代の人が少ないので、これからもっと若い技術者が増えてほしいと思います。

日本は森林面積が国土の約七割を占めているので、林業は今後更に需要が増すと私は思っており、これからも活躍の場が存分にあると思います。

林道は山に道を通すことで森林の手入れが楽にできるようになり、手入れが進めば水源涵養機能や災害防止等の公益的機能の向上につながります。普段、人の目に触れることは少ない仕事かもしれませんが、達成感を感じられて、やりがいのある仕事です。若い皆さんにもぜひ興味を持っていただけたらと思います。



①平成山（三八一峰）への登山

（岐阜署 関市）

山頂へは、往復一時間程度で登ることができ、手軽な登山ができます。途中の平洞からは素晴らしい景色も見られます。平成時代の思い出づくりに、平成山に登ってみませんか。



下旬

②上旬～中旬 水仙街道

（中信署 小谷村）

奉納温泉へ向かう県道三〇三号線・奉納中土線では、地元住民の手によって植えられた約百万株の水仙が約六キロメートルの沿道で見られます。

③上旬～中旬

姫川源流自然探勝園の福寿草

（中信署 白馬村）

今年は、降雪が少なく暖かい日が続い

ており雪融けが例年より早いと思われる、開花も早いかもしれません。二十一日には、姫川源流福寿草まつりが開催されます。

④6日 きんたろう倶楽部ボランティア作業

（富山署 富山市）

きんたろう倶楽部と富山森林管理署とで富山市稲代の国有防風保安林の竹林整備を行います。森林管理署ときんたろうボランティア会員で作業します。

⑤6～21日 なぎそミツバツツジ祭り

（南木曾支署 南木曾町）

ミツバツツジは、葉より先に花が咲きます。そのためまだ春先の枯野の世界で、ここだけがまっ赤な鮮やかな世界に変わります。

⑥9日 戸隠中学校果箱掛け

（北信署 長野市）



戸隠森林植物園（戸隠山国有林）にて、地元中学生が実施する伝統ある果箱掛けを行います。

⑦13日 「第4回善光寺ラウンドトレイル」

（北信署 長野市）

雪融け間もない大峰山国有林周辺において、概ね千名規模のトレイルランが開催されます。

⑧14日 神淵神社大祭（岐阜署 七宗町）

七宗国有林に隣接する神淵神社の例祭

は、四百年以上の歴史がある七宗町最大のイベントで、樹齢八百年の大スギ（国指定天然記念物）の神域で天の岩戸神話をかたちどる神事が行われます。

中旬

⑨中旬～下旬

はなもも街道の花桃が見頃

（南信署 阿智村）



伊那市から木曾谷を結ぶ国道二五六号線は「はなもも街道」といわれ約四〇キロにわたり一万本の花桃が植えられています。

⑩14～15日 春の高山祭り（日枝神社例祭）

（飛騨署 高山市）

十七世紀を起原とする豪華な祭り屋台の曳き揃えとからくり人形が奉納されます。ユネスコ無形文化遺産です。

⑪15日 立山黒部アルペンルート全線開通

（富山・中信署 立山町・大町市）



北アルプスを買って富山と長野を結ぶ立山黒部アルペンルート。約三ヶ月かけて除雪が行われ、開通予定です。標高二、四五〇メートルの富山県室堂付近では、道の両側に高さ十数メートルの「雪の大谷」が出現し、国内外からたくさんのお客が訪れます。

⑫18日 メルヘン街道開通式

（東信署 小海町、佐久穂町ほか）

春の行楽シーズンを迎え、小海町から茅野市を結ぶメルヘン街道が開通します。

⑬19日 付知峡山開き祭

（東濃署 中津川市）

付知地区にあるキャンプ場のオープンを前にシーズンの安全を祈願。地元保残会による岐阜県重要無形文化財の木やり音頭とおんぼい節の披露があります。

下旬

⑭下旬 称名滝開通安全祈願祭

（富山署 立山町）

称名滝安全祈願祭及び開通式が執り行われます。眼前には、立山連峰を源流とする落差日本一、三五〇メートルの称名滝（日本一の滝百選第一号）。

⑮下旬～ 乗鞍高原の水芭蕉

（中信署 松本市）

高原内の様々な場所で美しい群生が見られます。その愛らしさにちなみ「白ずきんの郷」の愛称がつけられています。

⑯下旬 五竜かたくり苑

(中信署 白馬村)

白馬五竜スキー場の麓に可憐なカタクリの花が咲き誇ります。カタクリは白馬村の村花です。

⑰19～20日 古川祭り(気多若宮神社例祭)

(飛騨署 飛騨市)

絢爛豪華な祭り屋台の曳行と起こし太鼓が有名。ユネスコ無形文化遺産

⑱20～23日 「2019さくら道国際ネ

イチャーラン」

(岐阜署 岐阜市、関市、美濃市、郡上市ほか)

名古屋城から金沢兼六園までを三十六時間以内にする、第二十六回「さくら道国際ネイチャーラン」が開催されます。

⑲22日

2019となみチューリップフェア

(富山署 砺波市)

富山県砺波市の砺波チューリップ公園にて四月下旬から五月初旬まで、砺波市と砺波市花と緑と文化の財団と砺波市観光協会の主催により毎年開催。

⑳25日 乙女溪谷山開き

(東濃署 中津川市)

中津川市加子母地区にある溪谷で加子



母森林組合が主催し、山の安全と繁栄を祈念します。

㉑25日 美ヶ原高原開山祭

(中信・東信署 松本市・上田市)

美ヶ原高原は、安全祈願とシーズン幕開けを告げるイベントを別々に開催します。イベント的な美ヶ原のお祭りは五月最終日曜日に開催される『美ヶ原牧場放牧祭』となります。

㉒26日 中央アルプス開山式

(南信署 駒ヶ根市)

開場・駒ヶ根市千畳敷カール内。登山者の安全と世界平和を祈願します。アルプホルンなどのアトラクションあり。

㉓27日 赤沢自然休養林オープン

(木曽署 上松町)

赤沢自然休養林、オープン予定です。午前九時オープン、九時三十分から森林鉄道の運行が開始されます。

㉔27日 乗鞍スカイライン早期開通オープン

(飛騨署 高山市)

夫婦松展望台まで開通、ここからの展望は絶景です。



㉕27日 戸隠森林植物園開園

(北信署 長野市)

野鳥観察しながら2時間ほどで周遊できます。隣接する戸隠神社や杉並木、戸隠山国有林が水面に映る鏡池などがおすすめです。

㉖27日 上高地開山祭(中信署 松本市)

河童橋のたもとで午前十時五十分から開催予定で、アルプホルンのファンファーレがシーズンの開幕を伝えます。

㉗28日 「飛騨小坂はなも祭り」

(岐阜署 下呂市)

飛騨路にようやく春が訪れ桜花爛漫の時節、道の駅「飛騨小坂はなも」では、丹精込めて育てられたはなももの木の色とりどりの花が咲き誇ります。

㉘29日 富士見台恵那山開き

(東濃署 中津川市)

恵那山、富士見台高原の二年間の安全を祈願する神事などが行われます。山頂からは三六〇度のパノラマが楽しめます。

㉙29日 奥裾花自然園開園式

(北信署 長野市)

周囲を国有林に囲まれた広大な湿原において水芭蕉の群生を楽しむことができます。



### 編集長だより あなたの写真を！お待ちしております

☆今年は春が早く、サクラの花なども早く開花するかもしれませんね。お近くの山野へ出掛けて春の美しい自然を味わってみてはいかがでしょうか。

☆ステキな写真が撮れましたらmigoro@maff.go.jpまで電子メールでお送りください。(1メール容量2MB以内)

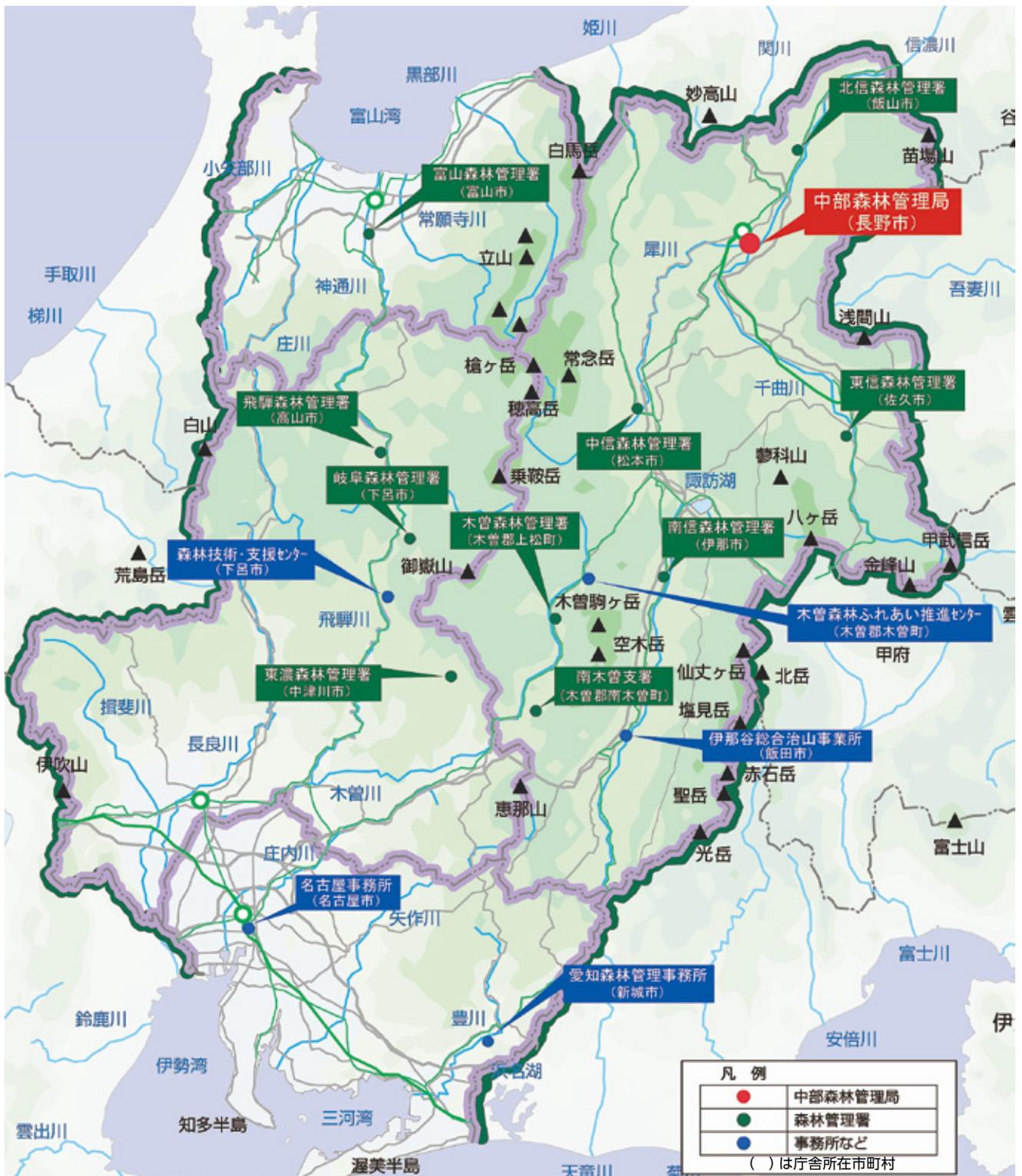
☆特にステキな写真は、広報誌「中部の森林」の表紙に掲載紹介させていただきます。

あなたの写真が来月号の表紙を飾るかもしれません。投稿をお待ちしております。

ご投稿には、氏名又はニックネーム、整理番号(4月なら①～⑳のいずれか)、撮影日を記入してお送りください。感想やコメントを添えていただいても構いません。

☆森林でのお仕事紹介コーナー、学生さんの進路検討の参考になると嬉しいです。

出前での就職説明会もできますので、お気軽に最終ページのお問合せ先へご相談ください。



お問い合わせ先 中部森林管理局 〒380-8575 長野県長野市大字栗田715-5 TEL 050-3160-6500 FAX 026-225-6112

名古屋事務所	〒456-8620	愛知県名古屋市中区熱田西町1-20	TEL 050-3160-6660	FAX 052-683-9269
富山森林管理署	〒939-8214	富山県富山市黒崎字塚田割591-2	TEL 050-3160-6080	FAX 076-424-4934
北信森林管理署	〒389-2253	長野県飯山市大字飯山1090-1	TEL 050-3160-6045	FAX 0269-62-4144
中信森林管理署	〒390-0852	長野県松本市島立1256-1	TEL 050-3160-6050	FAX 0263-47-4754
東信森林管理署	〒384-0301	長野県佐久市白田1822	TEL 050-3160-6055	FAX 0267-82-6959
南信森林管理署	〒396-0023	長野県伊那市山寺1499-1	TEL 050-3160-6060	FAX 0265-72-7774
木曾森林管理署	〒399-5604	長野県木曾郡上松町正島町1-4-1	TEL 050-3160-6065	FAX 0264-52-2582
南木曾支署	〒399-5301	長野県木曾郡南木曾町読書3650-2	TEL 050-3160-6070	FAX 0264-57-2686
飛騨森林管理署	〒506-0031	岐阜県高山市西之一色町3丁目747-3	TEL 050-3160-6085	FAX 0577-34-8932
岐阜森林管理署	〒509-3106	岐阜県下呂市小坂町大島1643-2	TEL 050-3160-6090	FAX 0576-62-2503
東濃森林管理署	〒508-0351	岐阜県中津川市付知町8577-4	TEL 050-3160-5675	FAX 0573-82-2109
愛知森林管理事務所	〒441-1331	愛知県新城市庭野字東萩野49-2	TEL 0536-22-1101	FAX 0536-23-2254
森林技術・支援センター	〒509-2202	岐阜県下呂市森876-1	TEL 050-3160-6095	FAX 0576-25-2420
木曾森林ふれあい推進センター	〒397-0001	長野県木曾郡木曾町福島1250-7	TEL 0264-22-2122	FAX 0264-21-3151
伊那谷総合治山事業所	〒395-0001	長野県飯田市座光寺5152-1	TEL 050-3160-6075	FAX 0265-22-0149